

# かぼちゃ・・・Ⅰ

担当者 技能研究員 三上 益由

試験課題名	品種系統選定試験
目的	本町に適した多収・高品質の品種を選定するため比較検討し普及に資する
期待される成果	優良品種の導入により、生産の安定と経済性の向上を図る。
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所 JA北ひびき和寒基幹支所 和寒町蔬菜組合連合会南瓜部会

## 1 供試品種・資材

品種

※えびす(タキイ) こふき(ナント) 北里(雪印)  
バカ旨(大学) くりゆたか(みかど協和) 紅爵(松島)  
※基準品種

マルチ資材

生分解性マルチフィルム(サンブラック工業株式会社)

・サンブラックNL95 ・サンブラックSB95 ・サンブラックSN95

## 2 耕種概要

土質～埴壤土

前作～越冬キャベツ

播種日～5月28日 定植日～6月12日 収穫日～9月18日

整枝方法～子蔓2本仕立て

栽植密度～畦幅3m×株間0.75m 444株/10a当たり

## 3 土壌診断結果と施肥量

### (1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	MgO	CaO	熱水抽出N
6.2	0.052	57.9	50.9	54.4	200.9	6.1

### (2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

炭カル～50kg 堆肥～2,000kg

### (3) 施肥内容 (成分量/%)

基肥～S 0 8 2 (10 - 18 - 12) 6月11日 全層施肥

分肥～S 4 4 4 (14 - 4 - 14) 7月5日 側条施肥

### (4) 肥料の要素量

(kg/10a)

		N	P	K
基肥	S 0 8 2 80kg	8.0	14.4	9.6
分肥	S 4 4 4 20kg	2.8	0.8	2.8
合計		10.8	15.2	12.4

## 4 調査項目

生育調査～播種日・発芽期・発芽率・定植日・定植時の苗質・初期生育

雌花開花期・着果節位・着果期・収穫日・成熟日数・草勢・うどんこ病

果実特性調査～果形・果皮色・肉厚・果肉色

収量調査～10a当たり収量・収量比・1株当たり平均個数・平均一果重・規格別割合

食味調査～粉質程度・甘味・食味

貯蔵調査～糖度(Brix)・腐敗率

## 5 生育調査

項目	品種	えびす	こふき	北里	バカ旨	くりゆたか	紅爵
播種日		5月28日					
発芽期		6月2日	6月2日	6月2日	6月2日	6月1日	6月2日
発芽率(%)		100	96	99	99	100	100
定植日		6月12日					
定植時の苗質	最大葉長(cm)	12.0	11.1	12.7	11.6	10.9	13.9
	葉数(枚)	1.2	1.4	1.2	1.3	1.3	1.2
初期生育	蔓長(cm)	41.4	37.2	43.6	33.8	33.0	38.6
定植から30日後	蔓の葉数(枚)	2.2	1.8	3.4	2.0	2.4	2.4
9月18日	蔓長(cm)	595	885	1,079	742	698	902
	蔓の葉数(枚)	33.8	37.1	56.2	32.3	31.2	41.5
雌花開花期		7月13日	7月13日	7月13日	7月17日	7月13日	7月13日
着果節位(節)		7.6	18.3	19.0	11.1	9.6	11.6
着果期		7月20日	7月20日	7月20日	7月26日	7月23日	7月20日
収穫日		9月18日					
成熟日数		67	67	67	71	67	67
草勢(強5~1弱)		3	3	3	3	3	3
うどんこ病(無0~4甚)		1	2	1	1	1	1

## 6 果実特性・収量調査

項目	品種	えびす	こふき	北里	バカ旨	くりゆたか	紅爵
果形		扁平	豊円	腰高	扁平	扁平	腰高
果皮色		濃緑	黒緑	黒緑	混	黒緑	橙
肉厚	赤道部(cm)	3.3	2.9	2.7	2.9	3.2	2.2
	花痕部(cm)	2.3	2.1	1.9	2.0	2.5	2.8
果肉色(濃5~1淡)		3	4	3	4	4	3
10a当たり収量(kg)		2,664	1,212	1,421	1,208	2,193	1,154
収量比(%)		100	45	53	45	82	43
1株当たり平均個数		3.0	1.3	2.0	1.6	2.6	2.0
平均一果重(kg)		2.0	2.1	1.6	1.7	1.9	1.3
規格別割合(%)	良果	44	75	50	80	88	67
	不良果	56	25	50	20	12	33

## 7 食味・貯蔵調査

項目	品種	えびす	こふき	北里	バカ旨	くりゆたか	紅爵
粉質程度(強5~1弱)		3.0	3.8	3.5	3.8	4.0	4.0
甘味(強5~1弱)		3.0	3.3	3.0	3.5	2.8	2.3
食味(良5~1不良)		3.0	3.3	3.0	3.0	3.3	2.0
糖度(Brix)収穫2週間後		12.2	12.5	13.6	12.8	12.6	12.9
12月12日	腐敗率(%)	14	13	7	25	0	75
	糖度(Brix)	14.4	19.8	14.6	18.4	15.6	17.2
1月9日	腐敗率(%)	100	100	78	100	100	100
	糖度(Brix)	15.7	14.8	16.7	12.5	15.7	16.7

## 8 防除歴

殺虫剤	7月4日	エルサン乳剤	1,000倍	8月29日	エルサン乳剤	1,000倍
	7月30日	アディオオン乳剤	2,000倍			
	8月17日	エルサン乳剤	1,000倍			
殺菌剤	7月30日	モレストン水和剤	2,000倍			
	8月17日	ポリバリン水和剤	1,000倍			
	8月29日	ポリバリン水和剤	1,000倍			

## 9 試験結果概要

### (1) 生育経過

- ① 育苗は78穴セル成型トレーを使い播種を5月28日に行った。発芽期はくりゆたかが6月1日に迎え、そのほかの品種は1日遅れて6月2日となった。
- ② 定植は全品種とも6月12日に行った。定植時の苗質の最大葉長では、紅爵が13.9cmと最も長く、葉数ではこふきの1.4枚が最も多い結果となった。
- ③ 定植から30日後の調査では、蔓長は全体的に33.0～43.6cmの間となった。葉数は北里が3.4枚で他の品種よりも平均で1枚以上多い結果となった。
- ④ 9月18日の蔓長調査では北里が10.79mと最も長く、次に紅爵>こふき>バカ旨>くりゆたか>えびすの5.95mという順になった。
- ⑤ 雌花の開花は7月13日に5品種が迎えたが、バカ旨は4日遅れて17日となった。着果期はそれぞれ7月20日～26日となり収穫は9月18日に行った。

### (2) 果実特性・収量調査結果

- ① 肉厚の赤道部はえびすの3.3cm、花痕部では紅爵の2.8cmが最も肉厚であった。果肉色はこふき・バカ旨・くりゆたかが4(濃5～1淡)となった。
- ② 10a当たりの収量では、基準品種のえびすの2,664kgが最も高く、えびすを上回る品種は無かった。
- ③ 1株当たりの平均着果個数はえびすの3.0個、くりゆたかの2.6個に対し、こふきは1.3個と少なくなった。平均一果重はえびす・こふきが2kg以上となった。
- ④ 規格別割合ではくりゆたかの良果88%が最も優れた結果となった。えびすや北里の良果の少なかった要因は日焼けもあったが、アブラムシの発生が大きかった。

### (3) 食味・貯蔵試験結果

- ① 食味試験はえびすを基準として、粉質ではくりゆたか・紅爵が最も良い結果となった。甘味はバカ旨が高く食味は、こふき・くりゆたかが3.3(良5～1不良)と高評価であった。
- ② 貯蔵試験は農協の7℃に管理されている倉庫に貯蔵し、12月12日調査時の腐敗率は紅爵が75%と最も腐敗しており、バカ旨が25%・えびす14%・こふき13%・北里7%・くりゆたかは1個も腐敗しておらず0%という結果となった。12月中旬からは活性化センターの15℃に管理した施設で貯蔵を行った結果、腐敗が進み、1月9日の調査では北里以外の品種は100%の腐敗となった。
- ③ 収穫から2週間後の糖度調査では、北里の13.6度が最も高く、その他の品種は13.0度未満となった。12月12日の糖度はこふきの19.8度が最も高く、それに続いてバカ旨>紅爵>くりゆたか>北里>えびすという順になった。

### (4) 考察

今年は、収量で基準品種のえびすを上回る品種は無かったが、くりゆたかは良果の割合が高く、貯蔵試験でも12月中旬までは腐敗率が低く、冬至に向けての出荷にも対応できる品種と考える。

12月中旬以降、全品種とも腐敗率が著しく上昇してしまった結果から、貯蔵方法など十分検討し、次年度も継続していきたい。